学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年4月24日
第５号

科学同好会 学会発表に挑む
フィールドワーク活発に

科学同好会が発足し活発に活動している。学会や高文連での発表を視野にフィールドワークもして地質の研究などをしている。

忍路の枕状溶岩をバックに松田先生と

部員５名＋馬渕先生

科学同好会（左写真）が熱心に活動している。現在、部員は５名。中村真子さん（３-１）、細田美桜さん、佐藤作さん（３-２）、加藤大智さん（３-３）、間宮さくらさん（２-１）。顧問は馬渕直人先生。

科学の知識つけ研究発表

火水木曜日の放課後と土曜日が活動日。Newton（科学雑誌）の読み合わせなどをして科学的な知識をつけたり、テーマを決めて調査研究し、プレゼン演習もしている。中村さん、細田さんは昨年度、「小樽西部海岸において約１０００年前前の海底火山の噴火活動史を明らかにする」というテーマの下、ドリプロで松田義章先生から学んだことを深め、東京工科大学で発表する機会を得ている。今年はさらにその研究の精度を上げ、地学学会や高文連で発表する予定だ。

→塩谷の地質を調査

→忍路の枕状溶岩を調査

大学入試に役立つ

また、このような学びは大学入試対策にもつながる。推薦入試、総合型入試に必要な小論文の知識を得ることができるからだ。部員も「知識をつけられる環境が整っている」とモチベーションは高い。ドリプロでは１回の発表で終わってしまうが、学会発表という目標を持つと、研究を継続できる。「馬渕先生のご指導の下、科学の知識がつきます。」科学に興味があり、深めたい人は是非訪ねてほしい。

→地層の方角を確認している。どの方向に引っ張られ、ズレが生じているのか、方向を測っている。

春の訪れを探しに「自然観察会」（小樽博物館主催）

４月19日、科学同好会が往復３時間かけて、オタモイの自然を観察した。

エゾサンショウウオの卵を発見。

可憐な野の花が咲いている。

オタモイの海岸を探検。

松田先生も講師として活躍。

私たちが参加しました。